



はやし 幹人 林もとひとと県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

児童生徒の安全確保

ICT技術の活用を

ICタグやGPS端末

6月県議会文教常任委員会

先の千葉県議会議員選挙で4期目の当選を果たした林幹人県議は、地元成田市的发展を目指して積極的な発言を続けています。改選後、初の定例会となる6月定例会県議会が開かれましたが、林県議は所属する文教

常任委員会で、ICT技術を活用した児童生徒の安全確保に対する取り組みや、「ライオン」を利用した高校生の悩み相談事業について質問しました。林県議の質問と県教育委員会担当者の答弁を紹介します。



6月県議会文教常任委員会で質問する林幹人県議

林委員 児童生徒の安全対策について質問する。子どもが被害者になるような事故や事件がたいへん多く発生している。教職員や保護者の皆さんも本心に心配していると思うし、児童の安全確保の工夫をそれぞれしていると思う。

ただ、どこまでやれば子供が安心というものではなく、なかなか心配の種は尽きない。やはり、それぞれの取り組みが大事になってくる。

県が進める「自助」を促す啓発リーフレットもその一つだと思うが、私からはいろいろな機器を導入して安全を確保できないかという視点で質問したい。

今回、市川市でICタグを利用した学校安全システムを導入することになった。ICタグをランドセルに付けた子どもが登下校時に校門を通過する際に、その時間とICタグのデータを記録する。カメラも設置され、映像も同時に記録されるというシステムだそうだ。

登下校の際に、子どもがいつ校門を通過したかという情報がほしい。

市川市では9月から本格的に運用を開始するということだが、県としてもそういった取り組みが出来ないかというところを伺いたい。

学校安全保健課長 今回、市川市がICタグを利用した防犯システムを導入するにあたって、県内の状況を調査しましたが、そのICタグの情報を集めている市がいくつかあると聞いています。

一方で、GPS端末の利用については、検討している市町村を含め、現時点では県内ではありませんでした。平成30年6月、関係閣僚会議で決定された国の登下校防犯プランにおいては、子どもの危険回避に関する対策として、今回のような

機器導入の意義大きい

要望 林委員 市川市が導入するICタグは、あくまでも子どもが登下校した時にそのデータが取れるだけだが、それをより発展させた機器にGPS端末がある。いわゆるキッズ携帯と呼ばれるものがあり、通話だけではなくGPS(位置情報)もついて、子どもが今どこにいるかをリアルタイムで知ることが出来る。

ただキッズ携帯は結構コストがかかるし、位置情報取得には回数制限されることもある。また低学年の子どもにも携帯を持たせるのはどうかという親も多いと思うが、調べてみると、通話機能を省いた小型のGPS端末もある。5センチ四方くらいで厚さ2センチほど。これもランドセルに付けられる。そうすると、いつでも保護

者がスマホやタブレットなどで子どもの位置を特定でき、非常に有用だ。月の使用料金は480円とリーズナブルらしいので、県による補助も考えられる。今後、さらに進歩していくICTの技術を、児童生徒の安全確保にも積極的に導入していくという考え方が必要だと思う。

他の自治体の導入例などを研究していくという話だったが、そういった技術へのニーズは確実に増していく。機器にスピーカーが付いていると、子どもが危険地帯に入ると、自動的に「そこから先は入ってはいけない」などと声をかけたり、あるいはボタンを押すと、緊急連絡が親のところに行くといった機能が付いているものもある。研究していただきたい。

子どもの安全を第一に考えれば、県としてこのような機器を導入する意義は大きいと思う。「コストがかかる話なので、なかなか一概に全部というのは難しいとは承知しているが、研究していただいて導入に向けて頑張っていたらいい。

ICタグ等を活用した登下校の安全確保を推進するということになっていきます。このようなことについては、県教委としても子どもへの危険を取り除くための方策の一つであると認識しています。

これからは、市川市の事例だけでなく国を通じて全国状況を把握するとともに、ICTを利用した様々な情報を収集し、各市町村にフィードバックができるようにしっかりと研究してまいります。

教育問題について質疑応答が行われた文教常任委員会(右から3人目が林幹人県議)



導入は慎重に

林委員 全高
 校生16万人に登録方法を示したカードを配布し、SNSのラインを活用してじめや不登校、友人関係などの相談に応じるという取り組みは、非常に有効だと思ふ。直接、話をするこはもちろん、電話での相談にも抵抗がある生徒が多いはずなので、ラインで手軽に相談できるのはたいへんいいと思ふ。ただ、問題が不登校や、いじめ、友人関係などといったデリケートで繊細なことなので、導入に対しては

かなり慎重にやっていく必要がある。例えばラインでの相談登録の仕方を教えて、その場で登録するなどということになると、「あいつは登録した」といふ話になりかねない。県として、どのような導入の仕方を考えているのかを具体的に教えていただきたい。

「ライン」で高校生の悩み相談

例えはラインでの相談登録の仕方を教えて、その場で登録するなどということになると、「あいつは登録した」といふ話になりかねない。県として、どのような導入の仕方を考えているのかを具体的に教えていただきたい。

児童生徒課長 今年度、初めて千葉県で取り組もうということとして、ご指摘いただきましたように非常にデリケートで、なかなか人に話せない相談を取り扱おうというものとして、慎重に導入していかなければ

ならないと認識しています。まずは対象生徒一人ひとりに利用してもらうために、登録方法を記載したカードを配布して活用を促すように心がけてまいります。安心して相談できるようにするため、相談窓口の利用に関する

対話形式で相談が基本

林委員 実際に運用していく中で、相談に対して相談員の方が返信するのにかかる期間はどのくらいなのかというのが気にかかる。例えば、高校生の感覚では、即座に返信しないと、「シカトされた」「ほおっておかれた」という感覚があるらしく、一日も返信が来ないと大変な話になるらしい。同じ感覚で利用された時に、「相談したのだけれど、一日経っても返信がない」となりかねないので、その点について教えていただきたい。

児童生徒課長 相談内容につきましましては、すぐに悩みを聞いて欲しいという思いで、「子どもたちが相談してくるケースが非常に多い」と考えられますが、生徒から相談がありました時には、相談員の数によっては限られてしまうのですけど、基本的には相談員が対話形式

で迅速に対応する体制を取りたいと考えています。相談員がすべてほかの相談で埋まってしまう場合には、「現在、相談がいっぱいですので、また改めてご相談ください」というテロップが流れる形で、受け取った相談を一旦二日放置するということがないようにしています。相談員の配置につきましては、特に導入当初や時期に応じて相談員の数を8人

程度に増やしていますし、また、1人の相談員で最大2人から3人の相談に応じることが出来る技術を持つた専門相談員を配置するという事になっておりますので、相談した方がすべてその場ですぐに回答をもらえるかどうかということになりますと限界はありますが、そのまま対話形式で相談を続けられるという方式をとっていくということです。

具体的内容とか、あるいは情報の取り扱いに万全を期しますということについて説明した文書を、生徒及び保護者に同時に配布してまいりたいと考えています。また、導入にあたって、学校においても安心して相談できるように、きめ細かな指導を行ってまいります。先ほど委員が心配なされましたような、他の生徒の前で登録させるといふようなことは考えておりません。

いう対応はやめていただきたい。デリケートな問題なので、受け取った相談に拙速なりアクションをするべきではないと考えている。対話形式で相談に応じるということは大変いいことなので、ラインの特性を生かして相談に応じてほしい。それから、ラインのメッセージが来たことの通知を携帯で受け取れるが、設定によってはメッセージの内容が画面に表示されるようになる。万が一、置きっぱなしの携帯画面に、相談員からの返信が表示されたりしたら非常にまずいことになるのではないかと。その辺の細かい指導をするなどの考慮はされているのか。

児童生徒課長 相談は5時から夜の9時としています。日中には授業や部活、また、アルバイトをしている高校生もいるということから、相談に対応するのは夕方から夜の時間ということになっていきますので、不用意に見られてしまうということはないと配慮しています。

林委員 マックス8人で、常時2人から3人態勢で対応するという事で、大変結構だが、相談員が皆、相談の時に「今、いっぱいなので」というテロップを流すというのは、つれない対応ではないか。要はリアクションがあればいいのであって、「承りました。検討してなるべく早く返答します」と返信すればいいわけで、「今はいっぱいなので、後にしてください」と

相談のために専用の部屋が用意されることになっていまして、千葉県の専門相談員しか入室出来ないなどの厳重なセキュリティをかけるなど、個人情報の保護には十分、留意をしております。また、生徒一人ひとりにも、相談内容が見られないような指導を学校の中で行っていくということについて配慮していきたいと考えております。

先ほどの相談が受け付けできなかったときの対応ですが、せっかく相談したのに、冷たい対応だということになれば、「二度と相談するものか」ということになってしまうので、相談がいつかの時にどのようなリアクションを返すかということにつきましましては、今後、しっかりと煮詰めていきたいと考えています。

林委員 慎重に運用すれば非常に効果が出る事業だと思つたので、ぜひ、成果を確認していただいて今後につなげてほしい。

速やかな対応必要 他人に見られる配慮も

林もとひと県議・プロフィール

略歴	
昭和48年9月	銚子市に生まれる
平成4年3月	銚子市立銚子高校卒業
平成8年3月	玉川大学文学部卒業
平成8年5月	米国ロードアイランド州語学留学
平成10年4月	空港グランドサービス入社
平成12年4月	衆議院議員・山崎拓秘書
平成15年4月	衆議院議員・林幹雄秘書
平成19年4月	千葉県議会議員初当選
平成23年4月	千葉県議会議員再選
平成27年4月	千葉県議会議員3選
平成31年4月	千葉県議会議員4選
現職	
● 県議会	文教常任委員会委員
● 自民党	ちば青年局長

● 県政や成田市のご相談・ご要望はお気軽にどうぞ 〒286-0134 成田市東和田569 なるげや陶器ビル3階D号
林もとひと 県議事務所 TEL.0476-20-0884 FAX.020-4622-9781 Eメール:motohito884@gmail.com